

平成30年1月30日
(2018年)

保護者様

和歌山市立湊小学校
校長 小谷 雅之

よりよい湊小学校をつくるためのアンケート結果について

厳寒の候 保護者の皆様方にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素は、本校教育活動にご理解・ご協力くださり、厚くお礼申し上げます。

さて、昨年末の大変お忙しい中、本校のアンケートにご協力くださりまして有り難うございました。

保護者と児童のアンケートを集計した結果、以下のようになり、全教職員で共通理解したところです。この結果を次年度への学校教育活動の参考とし、改善すべき点についても探ると共に、保護者の方にもご理解・ご協力をお願いすることも必要であると考えております。

つきましては、ご家庭におかれましても、このデータ結果を基として、お子様と話し合う機会としていただければ幸いです。(結果の表は、右側と裏面にあります。)

なお、以下の分析の数値比較は、「とても思う」と「まあ思う」を合計した数値で捉えていますので、ご了解ください。

記

〔保護者アンケートについて〕

(1) アンケートの1の「学校は、教育活動や子供の様子を、保護者にわかりやすく伝えている」が昨年よりも8ポイント増加している。また、授業についても「子どもに分かりやすい授業を工夫している」が、昨年よりも14ポイント増加し、これと関連して、「子供は学習内容が分かり、基礎的な学力が身についている」も6ポイント増加している。

授業中における個々の子どもに対応した学力向上に向けての工夫は大変難しいが、このような結果を励みとして、今後も努力していく必要がある。

(2) 一方で、6の「子どもに生命を大切にす心や、社会のルールを守る態度を教育している」では、昨年より約10ポイント減少し、「いじめをなくす学校・学級づくりに取り組んでいる」は、5ポイントの減少が見られ60%台となっている。定期的に、学級・学校でいじめについてのアンケートを実施したり、子どもたちが相談しやすい環境をつくるのが大切である。さらに、友達を大切に思いやる気持ちを培うことを忘れないように指導を継続していかなければならない。

命の大切さや社会のルールを守ることは、何よりも大切にしなければならないことであり、これからも交通安全教室での歩き方や自転車への乗り方を十分指導していくと共に、道徳などの時間を利用して社会のルール、マナー等について指導していくことが大切である。さらに、防災に関わる訓練等を定期的実施しているが、今後も日常を通して命の大切さを理解させると共に、よく考えた行動ができるように取り組んでいかなければならない。

(3) 上に述べた項目以外では、「とてもそう思う」「まあそう思う」の割合は、昨年度とほ

とんど変わっていない。

しかし、「学校施設は、教育的配慮がなされ、美しく使いやすい」という項目では、「まあそう思う」の数値は、昨年度よりさらに9ポイント減少し、約67%となっている。毎年、少しずつでも改善していくよう努力が必要と考えている。

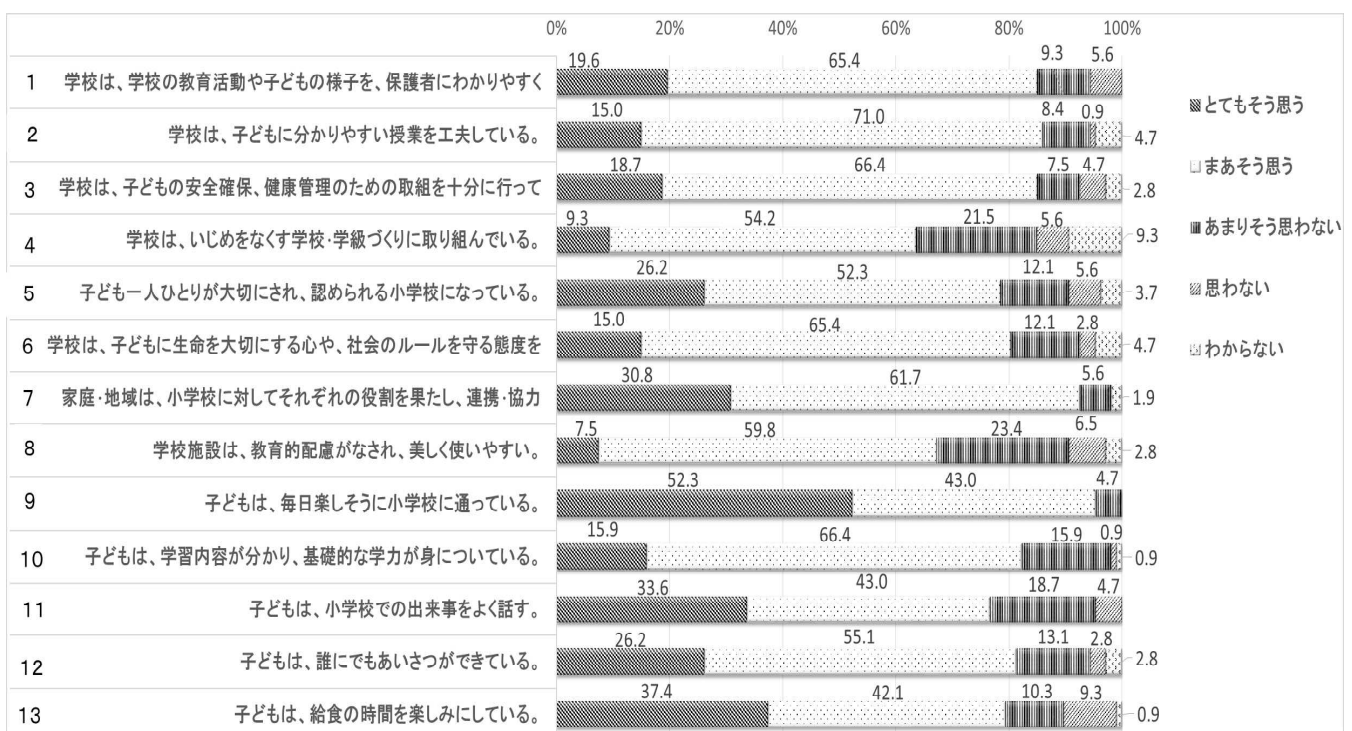
「子どもは、誰にでもあいさつができています」では、昨年よりも5ポイント増加しているが、約22%があまりできていないと感じており、5人に1人があまりできていないということになる。学校でも指導の継続が必要ですが、家庭でも日常生活の中でのルールと考え、声かけをお願い致します。

【来年度に向けて】

(1) 子供たちが、学習内容が理解でき、毎日楽しく学校へ通うためには、個々の子供に応じた学習教材・内容、学習環境の工夫・改善について考えていくことが重要である。また、学習面での意欲を喚起することも重要であるから、基礎的な問題だけでなくチャレンジ問題（応用）も取り入れ挑戦していく気持ちを高めることも有効と考えられる。昨年末から基礎タイムやフォローアップ学習で取り組み始めた練習問題や補充学習も継続させ、子どもの自信につなげていければよいと考える。

(2) 子ども一人ひとりの学習や生活の様子の把握に努め、いじめをなくすよう取り組むことが重要である。そのためには、定期的な(今は学期に1回の調査)「いじめをなくすためのアンケート」の実施だけでなく、日常における子どもへの声掛け、教育相談、各家庭との連絡・報告等、情報の収集に努め、家庭、保護者が安心して学校へ送り出せるような環境づくりに努めていかなければならない。また、学校内外における子どもの活躍、頑張りの結果を認め、個々の長所を引き出し、伸ばすための指導・助言や児童の自尊感情を高め、互いに認め合える学級づくりをめざして、保護者と地域、学校の3者が同様な意識で子どもに接していくことが重要である。

【保護者】



【児童アンケートについて】

- (1) 1の「学校が楽しい」で、中・高学年では97%がそう思っていて昨年と差はないが、低学年では約7ポイント増加し、約97%の子が楽しいと感じている。
- (2) 3の「私は毎日の勉強がわかる」では、低学年では変わらないが、中・高学年では8ポイント減少し、約83%となっている。
- (3) 4の「命の大切さや社会のきまりについて教えてもらっている」では、昨年とほとんど変わらないが、全学年とも約95%が「そう思っている」と感じていることは良いことである。しかし、知識としてもっているだけではなく、学んだ事柄を実行に移せるように、今後も努力していってくれることを願っている。
- (4) 5の「掃除を一生懸命している」では、低学年では「とても思う」が25ポイントも増加していることは良いことである。全体でも90%以上の子が一生懸命やっていて(特に、中・高学年は約97%)、実際に朝の清掃タイムでは無言で黙々としている姿がよく見られる。
- (5) 6の「だれにでもあいさつができる」で、低学年では、昨年度の増加に引き続き、今年も昨年より約10ポイント増加している。このまま、元気に実行してくれることを期待している。中・高学年では昨年より少し増加しているが、ほとんど変わらない。
- (6) 8の「いへのひとに学校のことをよくはなす」は、低学年では、昨年よりも約14ポイント増加しているが、中・高学年では約6ポイント減少し、約30%の子があまり話をしないと答えている。子どもの言うことに耳を傾け、良く理解してあげることが大切で、これからも家庭での忙しい時間の中でも話し合う場がつくられるようにご協力をお願い致します。
- (7) 9の「わたしの学校は、古いが、整っていて、過ごしやすく使いやすい」では、低学年では100%が、「そう思っている」と答えているが、中・高学年では約79%で、昨年より約5ポイント減少している。学校の施設が新しく、使いやすいとは言い難いが、全児童が、自分たちの清掃の成果できれいになっているところも多く、今後も大切に使うて欲しいし、必要なところは市教委からの力を借りながら改善していく必要があると感じている。

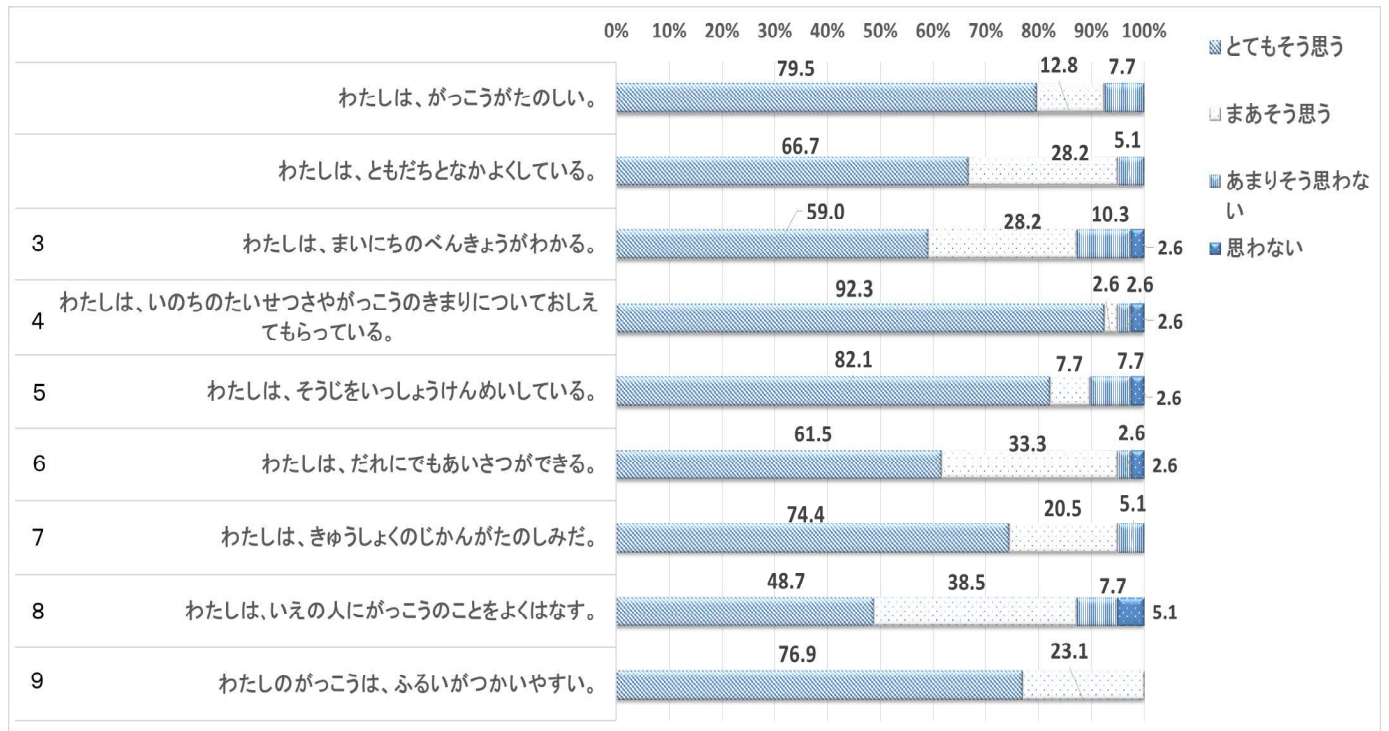
【来年度に向けて】

- (1) 全体的に見て、「とてもそう思う」「まあそう思う」の割合を昨年度と比べると、中・高学年におけるほとんどの項目で、大きな差は見られない。「毎日の勉強がよく分かる」が平均すると約80数%で、保護者アンケートの2の「子どもに分かりやすい授業を工夫している」でも、昨年度より約14ポイント増加し、子供と同様に80数%となっている。子供たちが興味をもつような教材を準備し、意欲付けをすることにより、もっともっと伸ばしていきたい数値である。授業に工夫を加え、さらに指導法を考察することにより、より勉強が分かる子どもが増えるように努力していきたい。
- (2) 低学年では、「挨拶ができています」「家で学校のことをよく話す」「学校が楽しい」が昨年度より増加し、子どもの様子がよくわかる結果である。また、「命の大切さや学校のきまりについて教えてもらっている」でも約95%の子がそう思っており、今後も命の大切さの学習、避難訓練、交通安全教室を開催するなど、さらに子どもたちへの指導を継続していきたい。

(3)「わたしの学校は、美しく整っていて、すごしやすく、使いやすい」で、「あまりそう
 思わない」子どもの割合が、思っていた数値より少なかった。校舎は古く、傷んでいる
 ところも多いが、古くても美しくなるように一生懸命掃除してくれている。学校も限ら
 れた予算の範囲で、学習環境の改善に向けて、修繕、整備し、気持ちよく使用できるこ
 とを目指していきたい。

(4)「だれにでもあいさつができる」は、来年度もこの数字の現状維持、あるいはこれ以上
 になるように指導していきたいと考えますので、ご家庭でもご協力をお願い致します。

【低学年】



【中・高学年】

